



はまます いっぺかだれや つうしん

～石狩市浜益区地域おこし協力隊通信～

Vol.21

※「いっぺかだれや」は「みんな集まれ！語ろう！」という意味の浜益の言葉です。

発行日：平成28年2月1日

発行：石狩市浜益区地域おこし協力隊



1月に入り、雪の量も増えてきました。気温が低いこともあって本当にサラサラのパウダースノーで感激します！雪なげが大変！と思いつつも、屋根の上に積もる雪がお菓子の家のように見えるので、大好きな風景です。



「浜益フォーラム at 浜益中 ～中学生と浜益の未来を語ろう～」を開催します

すでに回覧等でお知らせをさせていただいていますが、2月10日（水）に浜益中学校で「浜益フォーラム at 浜益中」を開催します。昨年10月にJICA（ジャイカ）の方が浜益中学校を訪問された際に浜益中学校の生徒さんたちが行ったプレゼンテーションを基にしながら、「もっと浜益に人を呼ぶには」というテーマで、中学生と地域の方々との討論会をして、楽しいアイデアを考えたいと思います。また面白くて、気になる講演会も予定しています。当日はどなたでも参加自由ですので、ぜひ足を運んでください！

日時：2月10日（水） 15:00～17:10

場所：浜益中学校 音楽室

【プログラム】

- 講演「地域に人を呼び込むには」 総合商研株式会社 藤森貴将氏
- 浜中生によるプレゼンテーション
- 浜中生と地域の方の意見交換会
- グループごとの発表



札幌のチカホで「浜益ニシン場物語」のジオラマが展示されました

1月23日（土）・24日（日）に札幌地下歩行空間（チカホ）で「北区魅力発見フェスタ」が開催されました。これは札幌市北区の主催で、隣接する石狩市・当別町も参加して、まちの魅力を発信しようというイベントでした。浜益からは、八田美津さんの人形を使ってニシン漁場を生き活きと再現したジオラマが展示されました。



当日会場へ行ってきましたが、ジオラマを多くのお客様が囲み、興味深そうにジオラマに見入っていました。会場内では一番人気になっていましたよ！

また会場では、石狩市の特産物の販売も行われ、ふじみやのどら焼き、きむら果樹園のリンゴ、善盛園のジャムなども飛びように売られていました。石狩市、そして浜益の可能性が大いに感じられたイベントでした。



「はまますのひと」第5回は、ふじみや創業者であり、現会長の小田 功さんにお話をうかがいました。浜益の名物として有名なふじみやのどら焼き。私たちも浜益に来てから何度も食べています！ そんなふじみやの創業からの歴史や、小田さんの思いなど、いろいろなお話をうかがいました。

小田さんがふじみやを創業されたのは、24歳の頃。15歳の頃から7年間、当別町の製菓業者で修行をされ、そこで今のどら焼きや中華まんじゅうの基礎となる技術を学ばれたのだそう。

その後、菓子販売だけでなく、民宿も経営されていたそうですが、今から20年前、漏電が原因でふじみやは火災となりました。このときはシーズンオフだったこともあり、けが人などを出すことはありませんでしたが、残念ながらこれを機に民宿業は辞められたそう。

そのことを契機に、菓子販売のための新しい販路の開拓が必要になり、石狩市街をはじめ、札幌などにも営業にできるようになり、その結果、今のように道内各地でふじみやのどら焼きが売られるようになりました。お話を聞いて、この火災が、結果的には今のふじみやになるきっかけになっているというのが不思議な気もしました。



「心の休まるときがない。眠れないこともあるんだよ」と話される小田さん。私たちには計り知れない、経営者だからこその孤独な思いも感じました。

そんな小田さんに今回「秘密のお部屋」も見せていただきました。ここで、ふじみやでお土産として売っているホタテの稚貝の貝殻を使ったモバイルやひょうたんなどの手作り製品を作られているとのこと。「ここで1人になって、作業に没頭するのが大切な時間」だと笑顔でお話されていたことが印象的でした。小田さん、ありがとうございました。

このときの販路の開拓はもちろん簡単ではなく、とてもご苦労されたそう。そのなかで小田さんが大切にされたのが「握手を交わすこと」。握手を交わした相手とは、その後必ず何かしらのつながりができたそうです。そして「相手が喜ぶことをすること」。人とのつながりでもっとも大切なのは「信用と信頼」の関係性をつくること、そのためには、自分の損になることでも相手が喜ぶことを第一にすることを心がけてこられたそうです。「言うは易し、行うは難し」で、実際にはなかなか難しいことだと思いますが、いろいろとお話をうかがっていくと小田さんの行動はまさにそのことを意識されていると感じることばかり。その積み重ねが、各地で信頼されるふじみやの姿勢そのものだという気がしました。

今回、小田さんとお話して感じたのは、ご先祖様をととても大切にされているなということ。ご自身のご先祖様に関する資料を大切にされ、日々の供養も欠かさずにされています。また、地元・川下の川下八幡神社が風化している様子も長く気にかかっていたそう。そこで、奥様の由美子さんに相談したところ、「あなたがそういうことをやりたいと言うのではないかと思っていた」と話され、その修復のためのお金を用意してくれたそうです。そのお金を使って、昨年、川下八幡神社の狛犬の台座と、参道にある石碑の入れ替えが行われました。今の時期は残念ながら雪の中に入ってしまった、見ることはできない状態ですが、今年の夏には新しい台座を見るのが楽しみです。

お忙しい中でも浜益のことを気にかける小田さんは、「浜益の自慢はすばらしい自然」だと話されていました。「人が増えると自然は破壊されてしまう、人間は自然の中で生かされている、共存している。人間がおごってはいけない」とも。浜益のすばらしさは、海・山・川がそろっている自然のすばらしさ。私たちが浜益に住んだ最初に感じたそのことを、改めて確認することができるインタビューにもなりました。